

平成 23 年度研究成果情報

課題名: ノリの色落ち原因珪藻アステリオネラの赤潮発生時期の予察法の検討

[背景・ねらい]

珪藻類アステリオネラ(学名 *Asteroplanus karianus*) (図 1) は有明海佐賀県海域において冬季に赤潮を形成し、ノリの色落ちを引き起こす種である。特に 2007 年度(平成 19 年度)以降のアステリオネラ赤潮は高密度化かつ恒常化していることから、その赤潮発生機構の解明及び赤潮発生・衰退時期の予察法の確立が求められている。そこで、2007 年度以降の現場データ(アステリオネラの細胞密度、浜川観測塔の表層水温、潮汐等)を解析し、アステリオネラ赤潮の発生時期の予察法を検討する。

[成果]

- (1) 2007 年度以降のアステリオネラ赤潮は浜川観測塔の表層水温が 10℃を下回った後、小潮期に発生していることが確認された。
- (2) さらに、2008 年度以降の赤潮は、「表層水温が 10℃を下回った後の初めての大潮期に続く小潮期」に発生していることが確認された(図 2)。

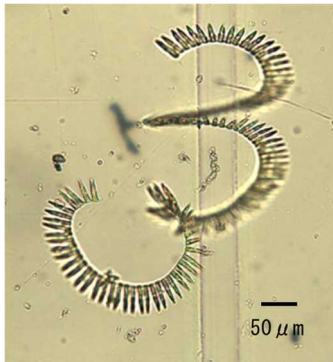


図 1 アステリオネラ



図 2 アステリオネラ細胞密度(赤)と水温(青)の変動(2010 年度)

[課題・問題点]

- ・アステリオネラ赤潮の発生時期は水温と潮汐のデータにより予察可能であることが示唆された。しかし、ノリの色落ち被害防止のためには赤潮の衰退時期の予察も不可欠である。

[今後の対応]

- ・現場調査の継続、赤潮衰退時期の予察に向けた現場データの解析 等

[その他]

研究期間: 平成 23 年～

研究担当者: ノリ研究担当 松原 賢

公表: 平成 24 年日本水産学会(春)口頭発表